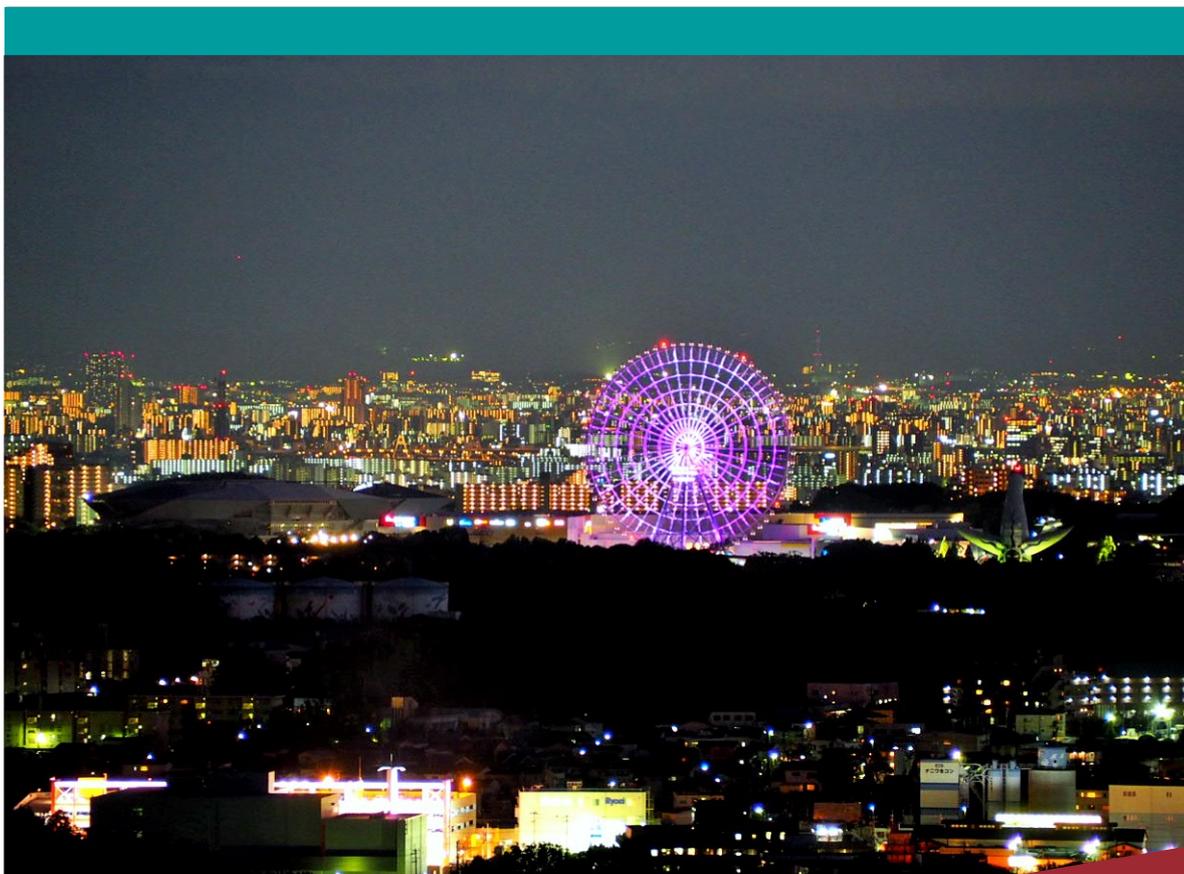


T-CUBE News Letter

彩都総合研究所



T-CUBE屋上から見る夜景。大阪の新名所「OSAKA WHEEL」

お客様をお迎えする影の主演「3つの森」

CONTENTS

- ・ T-CUBE 誌上ツアー 連載第4回「3つの森」
アース環境サービス株式会社 品質管理責任者 学術部 課長
- ・ 彩都人 Vol.2 島崎 光臣
- ・ 彩都の四季 —ビオトープ通信—
- ・ 今月の1枚

第4号
AUTUMN
2016

大塚グループのモノづくりの中から生まれたアース環境サービス株式会社は、医薬品製造のGMPのノウハウを背景として日本の衛生管理をリードしてきた。ライフサイエンス分野の研究・技術開発のための一大拠点「彩都」に竣工した研究所は、“PIC/S GMPにも準拠可能な衛生管理システムの構築・提案”を目的としている。

誌上ツアー第4回は「3つの森」を紹介する。

多くの製造工場で「総合環境衛生管理」を提供しているアース環境サービス株式会社。そのサービスは建屋内の環境の改善にとどまらない。一般の造園業者とは異なる、「防虫」目線での緑地管理なども提供している。

昆虫の生態をよく知るアース環境サービス株式会社だからこそできる「衛生管理としての緑地管理」は、植栽樹木の選定に始まる。彩都総合研究所T-CUBEにもそのノウハウは生かされている。

毎号、ビオトープの四季の移り変わりを当誌面でもご紹介しているが、今回の紙上ツアーでは、それぞれに特色あるT-CUBEの「3つの森」のコンセプトについてお話ししたい。



T-CUBEの「顔」である四季の森。季節の彩りで訪れたお客様を迎える。

連載第4回「3つの森」

アース環境サービス株式会社彩都総合研究所 T-CUBEは、「四季の森」「研究の森」「生態の森」と名付け、3つの森に囲まれている。

四季の森

落葉樹を多く植え、季節の彩りとなる花や実をつける植物を“あえて”植栽したエリアである。玄関口付近に位置しており、春夏秋冬それぞれの顔でお客様をお迎えする。春はヤマザクラやエゴノキの花が楽しめ、秋はヤマボウシの赤い実や、イロハモミジが色づく。

しかし、四季の彩り豊かな植栽は、実は防虫管理をする上ではあまりよくないとされている。アブラムシやカメムシなど、樹木が発生源となる昆虫は数多く、建物の出入り口付近に、そのような昆虫が好む植物を配置すると、建屋への誘因源となってしまう。建屋周辺の植栽の選定は防虫管理には欠かせない重要なファクターなのだ。

研究の森

「四季の森」とは対照的に、防虫上

よいとされている樹を多く選定している。アース環境サービス株式会社では、お客様から新工場建設のご相談を受けることがあるが、その際にご紹介している常緑樹を実際に見ただけ。「アラカシ」「スダジイ」などは虫害に強いことから、街路樹にも取り入れられており、一見すると地味ながら実はよく目にしている樹木である。

「研究の森」ではこれらの樹木に一種ずつプレートを付けて識別している。

「研究の森」の付近は、全国のお客様からの検体を受け入れる分析センターの荷受けの動線にもなっている。管理されたクリーンルームである分析・検査エリアに、昆虫を侵入させないためのひと工夫でもある。

生態の森

北摂の丘陵地帯に自生する樹々をそのまま再現したエリア。地域の環境に調和する緑地は、南側の溜池のビオトープへと続いている。間もなく1周年を迎える彩都総合研究所。ビオトープも秋の装いで来所したお客様を楽しませてくれている。



彩都総合研究所から見出す 「リスクと機会」

彩都人 Vol.2

アース環境サービス株式会社
品質管理責任者 学術部 課長
島崎 光臣

「アース環境サービス株式会社の総合環境衛生管理システム『エスコハシップ』『トータルヘルスケアシステム』に係わる本社他部門・支店の要請に基づく設計・開発および業務支援」という登録範囲で、「開発本部（分析センターを除く）」がISO9001:2015の認証を受けています。認証に含まれる事業所は、彩都総合研究所（大阪府茨木市彩都あさぎ7-11）および本社（東京都千代田区神田紺屋町17番地）です。

2015年10月のISO9001:2015発行から10ヵ月。アース環境サービス株式会社は、組織が置かれた“リスクと機会”の現状を踏まえて竣工した「彩都総合研究所」に於ける研究開発・人材育成に対して、ISO9001:2015の認証範囲を拡大した。品質管理責任者を務める学術部の島崎光臣課長に聞いた。

—ISO9001とはどのようなものですか？アース環境サービス株式会社の業務ではどのような位置づけなのでしょう。

ISO9001とはサービスを含む製品の品質保証を通じて、顧客満足向上を実現する国際規格です。アース環境サービス株式会社は、全国48拠点で衛生管理のサービスをご提供していますが、その中で最新情報の収集・伝達、社員のOJTを通じた会社全体のサービスの品質維持を役割とする「学術部」が、その前身である「開発部」時代からISO9001認証を取得していました。

—規格改訂ですが、どのような変更があったのでしょうか。企業側は何を実施すればよいのでしょうか。

2015年に行われたISO9001の改訂は、「QAのためのツール」から「有効性の高いビジネスツール」への変換です。システムの「実効性」「有効性」を強く求めるように要求事項が変化しています。

2015年に規格が改訂され、3年間の猶予期間がありますので、今、ISO9001に取り組んでいる組織は2018年までにISO9001:2015を基準とした「規格移行審査」を受ける必要があるわけです。

—既に規格改訂に対応したということですが、具体的にどのような準備をされたのでしょうか。

実は、規格改定への対応で、新しい手順・記録をイチから作成したものはありません。規格の意図を汲んで、方針や計画などで補強を行った部分はあります。すでにあるものに追加したり、強調することで新規格への対応を行うことができました。

—規格移行だけでなく、認証範囲を拡大し、彩都総合研究所を含む開発本部で取得したのはなぜでしょうか。

新設の「彩都総合研究所」ですが、従来から社内にあった機能を拡大強化し、3つのセンターとして組織を改組・再編成したものです。例えば「研修センター」は学術部が得意先ごとに提供している研修サービスを、国内外・社内外からの専門的など要望にお応えする内容に改訂し、得意先の枠を超えて提供する事業です。「研究開発センター」は研究開発機能を強化するために新設しました。元々は学術部の前身である開発部に含まれていた機能です。「分析センター」は試験所の国際規格ISO/IEC17025の認定を受けています。

2015年版の改定のポイントの一つに「リスクおよび機会」という考え方があります。組織にとってのマイナスとプラスの影響を評価して、必要なものに対処していくという内容の項目です。リスクには組織内部が抱えるリスクや外部リスクのほかに、「社会的なリスク」があり、さらにそれは「時間とともに変化していくもの」と捉えています。機会も同様で、社会潮流についての情報収集が不可欠になってきます。お客様をお迎えする見学の機能を持った新研究所は、顧客のニーズや、大学等の学術的な新知見を吸い上げて、衛生管理の新しいサービスを作っていくための施設。まさにこの「リスクおよび機会」への取組みに、欠かすことのできない役割を担っているのです。

—これから規格改定の対応に臨む多くの会社さんにメッセージをお願いします。

2015年版への移行は、イチから新しいシステムを作り上げていく、ということではありません。むしろ、自社の製品やサービス、そしてそれらを提供するための現行システムと改めて向き合い、そこに存在する「リスクおよび機会」をしっかりと把握した上で、どのような製品を開発していくのか、どのような企業になりたいのかについて整理してください。そして自社の成長イメージを社内でも共有してください。その上で認証すべき「組織の範囲」を決定し、経営計画と齟齬のない、トップマネジメントを主体とした効果的な品質マネジメントシステムの運用と維持に取り組んでいきたいと思います。

ビオトープ通信



ビオトープもすっかり秋の装いに

彩都も急に秋らしくなってきました。イロハモミジの葉もT-CUBEのテーマカラーの一つ「あかね色」に色づいています。秋の実りに誘われて、多くの野鳥がビオトープ周辺を訪れるようになりました。溜池ではメダカが数百匹に増え、マツモムシも帰ってきました。

【クロスジギンヤンマのヤゴ】

体長約6cm。現時点ではビオトープの生態系トップと思われます。4匹が確認されており、メダカやヌマエビを捕食しています。彼らはこのビオトープで越冬し、来年羽化するのではないかと思います。

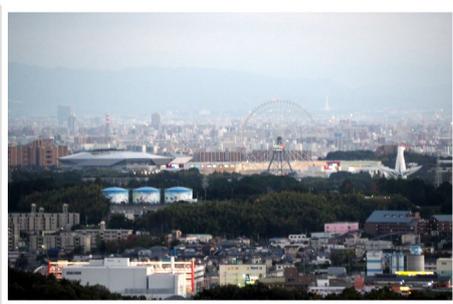
【ヤマガラ】

四季の森にあるエゴノキの実を食べに来ています。エゴノキの実はサポニンを含み、「えぐい」ので人間は食用にしません。ヤマガラは好物のようです。実を啜って地面に下りると、穴を掘って埋めているのですが、餌の少ない冬に備えて食べ物を貯える貯食行動のようです。



今月の1枚 <T-CUBE屋上からの眺め>

彩都の丘陵地にあるT-CUBEの屋上からは、すぐ近くの万博記念公園エキスポシティがよく見えます。今年7月にオープンしたばかりの大観覧車「OSAKA WHEEL」と大阪万博の象徴、岡本太郎氏の「太陽の塔」。新旧2つのランドマークが並びます。冬になると、空気が澄み、夜のライトアップがいっそう映えます。



OSAKA WHEELの右側が太陽の塔

お問合せ先

アース環境

アース環境サービス株式会社
Earth Environmental Service Co., Ltd.

彩都総合研究所

〒567-0085

大阪府茨木市彩都あさぎ 7-11

TEL : 072-643-0640 (代表)

Webサイトもご覧ください:

<http://www.earth-kankyo.co.jp/>

発行日 2016年11月28日